

# デイだより

No. 298  
令和3年  
2月1日発行

武蔵野市立高齢者総合センター デイサービスセンター  
公益財団法人 武蔵野市福祉公社  
TEL : 0422-51-2933 (直通) FAX : 0422-51-1982



**如月** 立春を過ぎ、暦の上では春を迎えますが、まだまだ寒さが続いています。体調管理には気を付けてお過ごしください。今月も職員一同、笑顔で元気に皆様をお待ちしております。

令和3年2月の予定(休日のお知らせ)  
2月11日(木)建国記念の日  
2月23日(火)天皇誕生日  
祝日のためお休みとなります。ご了承ください。



佐藤雅美のつぶやき



常滑のはるひこさん



昨年、愛知県の常滑にでかけました。  
常滑焼といえば、梅干しのかめ。小豆色のぽってりした胴体に4、5本の墨汁を流したような太い模様。我が家にも昭和の時代からあり、年に一度、梅干しを漬けるときだけ活躍します。  
街を案内してくれたのは、常滑市のシルバー人材センターのはるひこさん。  
一緒に歩きながら、汗だくで説明してくれます。  
常滑の土は、焼き物に適していて、千年前から土器が作られていたこと、明治以降は輸出産業の花形だったこと、伊勢湾に面しているのも、土管やかめなどの大物がすぐに海路で運べることも、など。  
はるひこさんの話は熱を運び、少年の頃に戻ります。  
『はるひこ、登り窯から煙があがるとぞ～早く洗濯物しまえ～。』と母によく言われたものだと話をしていました。登り窯の燃料は薪なので、5ミリくらいのすすが舞って、道路は真っ黒になりました。洗濯物を取りこみながら、見上げるもくもくの煙は、はるひこ少年にとって、常滑の繁栄の証のようで、嬉しく誇らしかったそうです。その後、時は流れて登り窯から煙がでることはなくなりました。  
土管坂、登り窯、やきもの散歩道、駄菓子屋、いちき橋、、、  
熱い郷土愛にあふれる人たちの街。  
我が家のかめを眺めながら、また行きたいなあ・と思っています。

看護師よりお願い



感染症が流行しています。  
センターへご来所の際は、マスク着用・予備のマスクのご持参をお願いいたします。

節分

※ 豆まき予定にご注意あれ ※  
今年は「立春」が2月3日になるので、2021年の節分は明治30年以来124年ぶりに2月2日になります  
今年も「福は内、鬼は外」福々しい春を呼び込みましょう。



